

国土学事始め



大石久和

京都大学大学院
特命教授

夏の日本海は波も静かで、多くの人が海水浴や磯遊びを家族で楽しんでいきます。風光明媚であるうえに有名な温泉も多くあります。ところが、冬になると事情は一変するのです。シベリアからの寒風もあつて海

はいつも荒れていきますし、降雪は時に豪雪となつて生活を妨害し大変な生活不便地となつてしまいます。この豪雪により、近代に至るまで、冬場は閉じ込められた生活を強いられてきたこの地方の人々

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

察し、土地に根差す先人の生活や努力に思いを馳せる感受性や、地域への深い愛着の念を取り戻すことも必要ではないでしょうか。それが荒れ果てた地域社会の再生を目指す政策に結びつき、日本古来の

あつて海はいつも荒れていきますし、降雪は時に豪雪となつて生活を妨害し大変な生活不便地となつてしまいます。この豪雪により、近代に至るまで、冬場は閉じ込められた生活を強いられてきたこの地方の人々

日本海側の暮らし

は大きくありませんが「豪雪・曇天・湿潤」という世界と、2つの世界から成り立っているのです。2つの異なる環境を持つ国は世界的に珍しいの

道徳観の復興につながるからだと思います。言うのです。

九州大学の施光恒准教授

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

芸が誕生したと述べた、と言います。また、施氏は、「昨今の尖閣や竹島の問題で国土に対する意識が高まることは大いに結構なことです。でも、さらに踏み込んで国土の意義を考

国土は全体が一体となつて形成されています。不便なところなどに住まなければいけないなどと言う「太平洋側感覚」「東京感覚」「経済感覚」は

は、何事にも我慢強く堪え忍

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

は、何事にも我慢強く堪え忍

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文

は、土地に眠る死者の魂の痕跡を感受する精神だ」と論じ、土地に臨み、過去の人々の暮らしや思いを受けとり、歌に詠みこみ、そこから日本の文